

機関番号：34439

研究種目：若手研究(B)

研究期間：平成 20 年度～平成 22 年度

課題番号：20791807

研究課題名(和文)

地域における子育て支援活動に参画する高齢者の特徴と効果的な支援についての検討

研究課題名(英文) Characteristics of elderly people participating in parenting support activities and effective support in community

研究代表者

草野 恵美子 (KUSANO EMIKO)

千里金蘭大学・看護学部・准教授

研究者番号：70346419

研究成果の概要(和文)：

本研究では、少子高齢社会における子育て支援策の 1 つの可能性として、高齢者世代が参画する子育て支援活動に焦点をあてた。前提として、その参加者である母親の特徴の詳細について先行調査の追加的分析を行い、高齢者世代が参画する子育て支援活動への参加理由や社会的孤立に関する育児ストレス軽減との関連などについて把握した。さらに、地域における子育て支援活動や地域活動に参画する高齢者世代等の特徴や参加を促進する要因、潜在的人材について検討するために調査を実施した。

研究成果の概要(英文)：

In this study, I focused on a parenting support activity by the community-based elderly persons, as one of the measures for parenting support in the progress of aging population combined with low birthrates. In order to obtain detailed information on the characteristics of mothers as participants, additional analyses were performed. As a result, the reasons for the participation in the activities, the association between the reductions in parenting stress related to social isolation because of child care, and so on were showed. Additionally, the survey was conducted to examine the characteristics of the elderly generation who participated in parenting support activities and other community activities, factors that promote participation, and potential human resources for parenting support.

交付決定額

(金額単位：円)

年度	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
平成 21 年度	900,000	270,000	1,170,000
平成 22 年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 ・ 地域・老年看護学

キーワード：少子高齢化、子育て支援、高齢者、地域

1. 研究開始当初の背景

我が国において少子化が社会的問題となつて久しく、様々な側面からの取り組みがなされているものの、少子化傾向は依然として続いている。また、育児負担や虐待など子育てに関する問題も多く存在し、子育て世代が安心して生み育てることのできる環境づく

りがより一層必要とされている。中でも乳幼児期、特に 3 歳未満児の子育ての約 8 割は、家庭内で主に母親によって行われており、核家族化の進行や地域共同体の機能が衰退する現代において、子育ての孤立化や育児不安増大など、乳幼児を育てる母親をとりまく状況は厳しい。このような状況に対しては個人

や一家庭のみで対処することは難しく、地域全体で子育て環境を整える子育て支援策が求められている。

地域全体で子育て支援を進めていくために必要な社会資源には様々考えられるが、地域における人的社会資源の1つとして高齢者の存在が考えられる。高齢者は社会の人口構成割合の約2割を占め、地域社会での主要な存在となっている。また、予想以上の少子化の進行に対応し、少子化社会対策のさらなる推進を図るため、2006年6月に少子化社会対策会議において決定された「新しい少子化対策について」においても、地域の退職者、高齢者等の人材活用が重要な施策として掲げられており、実際、子育て支援の分野で活躍する高齢者も増加しつつある。高齢者は人生や子育ての先輩であり、核家族化等で身近に手本となる人がいない母親にとっては貴重な存在となり得る。また、地域に長年住んでいる人が多く、その地域のことをよく把握していることが多い。よって、地域における子育て支援に高齢者が参画し、効果的な支援を提供することは、地域の子育て力向上に貢献し、母親の育児負担の軽減、さらには健康づくりにつながる事が予想される。

先行研究については、国内において、高齢者の子育てへの参加の重要性については近年研究が進みつつあるが、多くは、高齢者と子どもなどとの「世代間交流」という点に着目して高齢者自身への効果や、子どもへの効果等について検討されたものである。一方、高齢者を「支援する立場」ととらえた研究については、地域での子育て支援活動に参加した高齢者と母親の相互理解の促進などの研究があるものの、どのような特徴をもった高齢者が地域の子育て支援に参加意欲があるか、また、どのような要因が子育て支援への参加を促進させるかといった詳細については明らかとなっていない。また、国外においては、高齢者と成人した実子への支援などについての研究はみられるものの、これらは家族内のやりとりに限った研究である。

子育て支援において、同世代の母親同士による支え合いだけでなく、同じ地域に住み、同じ時間も共有しやすい退職者や意欲のある高齢者が効果的に支援することは母親の育児負担軽減のための1つの方策となり得る事が予想される。同世代・異世代を含む多様な人とのふれあいが母親の養育力により効果を与えると報告もあり、地域における高齢者の子育て支援が母親に良い影響を与えることは十分予測され、そのためにはまず、どのような特徴をもった人材が必要か、また参加を促進させる要因が何かということについて示していく必要性があり、より濃厚な子育て支援が必要とされる中で、意義ある研究となり得ると考えた。

2. 研究の目的

少子高齢社会における子育て支援策の1つの可能性として、高齢者世代が参画する子育て支援活動に焦点をあて、地域における子育て支援活動や地域活動に参画する高齢者世代等の特徴を把握し、参加を促進する要因や効果的な支援策について検討することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、高齢者世代が参画する子育て支援活動に焦点をあてることとし、まず、これまで研究代表者が実施した先行調査結果について追加的分析をすることにより、高齢者世代が参画する子育て支援活動に参加する母親の状況等について、より詳細な特徴を把握することとした。さらに、その結果や関係者等からの聞き取りをもとに、地域活動で活躍する高齢者世代等の特徴と子育て支援活動への関心に関する調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 高齢者世代が参画する子育て支援活動に参加する母親の特徴等についての先行調査結果の追加的分析

① 親族以外の地域住民による支援の実態と支援内容の特徴

地域社会全体による子育て支援に向けて、乳幼児を育てる母親における親族以外の日常的な子育てに関する支援者の実態を把握するとともに、親族以外の支援者による支援内容の特徴について検討した。その結果、親族以外の支援者では、主に近くに住む同年代の知人・友人が最も重要な支援者となっており、高齢者世代は日常的にはほとんど支援者となっていない現状がわかった。また日常的な子育てに関する支援は親族内から得ていることが多いが、内容によっては親族内よりも親族以外から支援を得ていることが推測された。親族以外の支援者による支援内容の特徴については、情緒的な支援や情動的な支援は比較的提供されているものの、直接的な援助となる手段的な支援は提供されにくいことが示唆された。

② 社会的な要因に関するストレスが母親の精神的健康に及ぼす影響

社会的な要因に関する育児ストレスに焦点をあて、母親の精神的健康に及ぼす影響について検討した。その結果、社会的な要因に関する育児ストレス(『アイデンティティの喪失に対する脅威』『育児に対する社会からの圧迫感』『育児環境の不備』)が高いほど、母親の抑うつも高くなり、社会的な要因に関する育児ストレスへの地域社会の介入は母親の精神的健康の向上につながる可能性が

示唆された。

③ 高齢者世代が参画する子育て支援活動（子育てサロン）への母親の参加状況・参加理由

本研究では、高齢者世代の地域住民による子育て支援活動の1つとして、「子育てサロン」に焦点をあてた。子育てサロンに参加している母親の約半数は、子育てサロンへの参加だけでなく、子育てサークル等他の子育て支援活動にも参加するなど、複数の子育て支援活動に参加していることが示された。子育てサロン及び他の子育て支援活動への参加理由をたずねたところ、共通して上位にあがっていた理由は、「他の親子と交流したかったから」、「家の外に出る機会が欲しかったから」となっており、子育てサロンと同様、他の活動においても、他の親子との交流や家の外に出る機会をより多く得るために参加していることが考えられた。それ以外に上位にあがった理由は、「同年代のお母さんと交流がしたかったから」であり、同年代の母親との結びつきを深めることを求めていることが考えられた。子育てサロンのみ参加している者と、子育てサロン以外の他の子育て支援活動に重複して参加している者で、子育てサロンへの参加理由に違いがあるか検討したところ、「他の親子と交流したかったから」と「違う世代の近所の人と交流したかったから」と答えた割合が、子育てサロンのみ参加している者よりも子育てサロン以外の活動にも参加している者の方が有意に多かった。子育てサロンだけでなくそれ以外の子育て支援活動に参加している者は、サロンのみに参加の者よりも、他の親子との交流を求めており、また、違う世代の近所の人との交流を期待している可能性が考えられた。

④ 高齢者世代が参画する子育て支援活動（子育てサロン）に参加する母親の育児ストレス軽減への影響要因

高齢者世代の地域住民による子育て支援活動が母親の育児ストレスに及ぼす影響について検討した。本研究においても、高齢者世代の地域住民による子育て支援活動の1つとして、「子育てサロン」に焦点をあてた。子育てサロン参加者は非参加者よりも『アイデンティティの喪失に対する脅威』に関する育児ストレス得点が有意に高くなっていたが、育児ストレスに関連する他の要因の影響を加味した重回帰分析の結果、子育てサロンへの「参加の有無」の要因のみでは、育児ストレスに影響を及ぼさないことが示唆された。さらに、子育てサロン参加者を対象として、「参加頻度」による影響を検討したとこ

ろ、参加頻度が多いことが、『アイデンティティの喪失に対する脅威』に関する育児ストレスを低くする結果となっていた。本研究で用いた尺度では、『アイデンティティの喪失に対する脅威』は社会的孤立による育児ストレスを反映しているとされており、地域のつながりの強化による子育て支援を目的とする子育てサロン活動が社会的孤立に伴う育児ストレスの軽減に寄与する可能性が示唆された。

⑤ 近所づきあいの強さと子育てしやすさ感との関連

これまでの分析により、高齢者世代の地域住民による子育て支援活動の1つとしてとりあげた「子育てサロン」が社会的孤立に伴う育児ストレスの軽減に効果がある可能性が示唆された。「子育てサロン」が目標とする地域のつながりの強化が子育てしやすいという感覚と関連しているかどうかについて確認するために、本研究と同地域で実施の先行調査結果をもとに分析した。本研究では、地域のつながりを検討するにあたり、ソーシャル・キャピタルの考え方に注目した。ソーシャル・キャピタルと子育て支援との関連については報告が少ない。本研究において、個人レベルのソーシャル・キャピタルとして「近所づきあいの程度」をとりあげて検討した結果、その地域での子育てのしやすさ感を増強させることが示唆された。さらに、「近所づきあいの程度」の4段階のうち、もっともつきあいの程度が高い「互いに相談・日用品の貸し借りなど生活面で協力」よりも、1段階低い「日常的に立ち話をする」の方が影響力が強い可能性が示唆された。

以上より、母親の近所づきあいの程度は、その地域で子育てしやすいという感覚に影響を及ぼすことが示唆された。さらに、近所づきあいの程度は、全くつきあがないよりも何らかのつきあいがある方が子育てしやすさ感の増強に影響を及ぼすが、つきあいの程度が高ければ高いほど子育てしやすさ感の増強に影響するというよりも、つきあい方によって影響力が違う可能性が考えられた。

(2) 地域活動で活躍する高齢者世代を含むシニア世代の特徴と子育て支援活動への関心に関する調査の実施

これまでの追加的分析や関係者からの聞き取りから、子育て支援活動に参画している高齢者世代は現段階では多数ではないことが推測されたため、子育てに限らず、広く地域活動で活躍する高齢者世代の特徴をとらえることとし、さらに、潜在的人材の把握も念頭に置き、高齢者世代のみならず、子育ての先輩である世代として子育てが一段落し

た概ね 50 歳以上も含めた世代をシニア世代として調査対象者とし、子育て支援活動への関心について把握することとした。

その結果、子育ての経験者が多く、また、現在の地域への居住年数が比較的長く、今後も住み続けたいと思っている回答者が多くみられた。地域活動への参加を促進している要因については、活動場所が近所であることややりがいがあることなどがみられた。また、現段階では子育て支援活動には参加していない場合も、興味・関心はある傾向がみられ、潜在的な人材の存在がうかがえた。

様々な世代が一緒に取り組む子育て支援に対する自由意見では、具体的な方策として、「中・高校生の参加を促したい」「男性の参加を希望する」「働くお母さんを支援する体制をもっと考えたい」「子育てサロンや高齢者対象のサロンから、世代間交流サロンへの進化が必要と思う」「今頃の若い人は・・・とよく言われるが、同世代だけでなく年下の意見なども知っていくことが大事だと思う」などの意見がみられた。また、「個人情報保護のために役所の対応が思うようにならないのはがやゆい」といった悩みもみられた。さらに、子育てがひと段落した直後の場合、「自分の子育て期が終了し、子育てに関する活動に参加する機会がない。ただ、今はやっと終わったとホッとしている」との意見からもわかるように、地域の支援者側の状況や特性に考慮する必要があると考えられる。全ての高齢者世代・シニア世代が、子育て支援活動の場に出向いて直接的な活動をしなければならぬわけではなく、「子どもは国の礎」「子育ては誰もが関心を持って行動すべきだと思う」「地域が共生できる社会をつくりたい」と自由意見にもあるように、その意識を持つことが重要と考えられる。また、積極的に参画したいと考える人が参加しやすいしくみづくりが重要と考えられ、さらに詳細な検討を続けていく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 草野恵美子、小野美穂、高山智子、乳幼児を育てる母親における親族以外の子育て支援者の実態と支援内容の特徴、千里金蘭大学紀要、6 巻、2009、91-99
- ② 草野恵美子、小野美穂、社会的な要因に関する育児ストレスが母親の精神的健康に及ぼす影響、小児保健研究、69 (1)、2010、53-62
- ③ Emiko Kusano, Miho Ono, Kazuo Hayakawa, Influence of support by elderly persons on Japanese mothers' child

care-related stress, Nursing & Health Sciences, 12(2), 2010, 182-190

[学会発表] (計 3 件)

- ① 草野恵美子、小野美穂、早川和生、子育てサロンに参加する母親におけるサロンおよび他の子育て支援活動への参加状況と参加理由、日本地域看護学会第 11 回学術集会、2008 年 7 月 5 日、琉球大学医学部 (沖縄)
- ② Emiko Kusano, Miho Ono, Kazuo Hayakawa, Influence of Mother's Participation in Parenting Support Activities by Elderly People on Their Childcare-Related Stress, The 4th international conference on community health nursing research, August 17-20, 2009, Adelaide Convention Centre (Adelaide)
- ③ 草野恵美子、奥野ゆかり、佐藤文子、和木明日香、浅見恵梨子、上田恵子、乳幼児を育てる母親の近所づきあいがその地域での子育てのしやすさ感に及ぼす影響、第 7 回子ども学会議学術集会、2010 年 10 月 2~3 日、川越市市民会館 (埼玉)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

草野 恵美子 (KUSANO EMIKO)

千里金蘭大学・看護学部・准教授

研究者番号：70346419